

資格対策

授業の目的・概要

本授業は、動物関連分野で必要となる基礎的な資格取得を目指し、専門知識の定着と試験対応力の向上を図ることを目的とする。4級・3級の問題演習と解説を通して、基礎知識を段階的に理解し、繰り返し学習することで確実な定着を図る。また、ビオトープ管理士試験に向けた演習を通して、環境や生態系に関する知識を深める。さらに、試験対策を継続的に行うことで、問題形式への対応力や時間配分の感覚を身につけ、資格取得に必要な実践的な学習習慣と自己学習力の向上を目指す。

科	通信制学科	教員	荻野
コース	-	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位数	3 単位

目標

前期

生物分類技能検定合格に必要な知識を身に付けることができる。

後期

生物分類技能検定 3 級に合格することができる。

ビオトープ管理士合格に必要な知識を身に付けることができる。

授業計画

- 1 回 アイスブレイク、自己紹介
- 2 回 資格取得の意義、スケジュールについて
- 3 回 4 級の問題と解説
- 4 回 3 級の問題と解説①(1 回で 4～5p)
- 5 回 3 級の問題と解説②
- 6 回 3 級の問題と解説③
- 7 回 3 級の問題と解説④
- 8 回 3 級の問題と解説⑤
- 9 回 3 級の問題と解説⑥
- 10 回 3 級の問題と解説⑦
- 11 回 3 級の問題と解説⑧
- 12 回 3 級の問題と解説⑨

水族飼育概論・実習Ⅱ

授業の目的・概要

本授業では、水槽管理に必要な基礎知識と実践的な技術を学び、アクアリウム・水族館業界で求められる飼育管理能力を身につけることを目的とする。淡水・海水それぞれの水質管理やろ過、機材メンテナンス、生体の健康管理などを体系的に学習し、安全で適切な飼育環境を維持する力を養う。また、水草やサンゴの育成、レイアウト技術、コケ対策などを通して、観賞性と管理技術の両面を理解する。さらに、生体発表や調べ学習を通じて探究心や発信力を高め、現場で主体的に行動できる実践的な人材育成を目指す。

科	通信制学科	教員	姉崎
コース	・	教員の実務経験	・
対象年次	2 年	年間単位数	2 単位

目標

- ・ 基本的な水槽管理業務(水替え、水槽周り美化、水質検査、機材メンテナンス)等が行えるようになる
- ・ 生体の健康管理(給餌、状態チェック、状態異常への適切な対処)等を行えるようになる
- ・ 水槽の立ち上げ作業からリセット作業までを行うことができるようになる
- ・ 水槽管理業務に必要なコミュニケーション能力を身につける

授業計画

[前期]

- 第1週 前期授業について、水槽管理に対しての心得
- 第2週 水槽管理において必要なもの一式解説(淡水海水共に)
- 第3週 水換えについて(RO 水や浄水器説明、人工海水作成含む)、バッキングについて
- 第4週 水槽の掃除、美化について

第5週 機材メンテナンスについて

第6週 病気についてと魚の健康チェックについて(魚の導入含む)

第7週 魚の健康管理について

第8週 餌について

第9週 バクテリアについて

第10週 水質について①-主に淡水(水質検査含む)

第11週 水質について②-主に海水(水質検査含む)

第12週 ろ過について

第13週 水槽の立ち上げについて

第14週 様々な飼育スタイルについて

第15週 前期内容の振り返り

第16週 前期試験

第17週 前期のまとめ・調べ学習

第18週 試験返却・試験の振り返り

[後期]

第19週 後期の授業について、夏休み期間の振り返り

第20週 好きな魚、水生生物を発表(1人1種または1系統)

第21週 レイアウトについて-淡水編

第22週 レイアウトについて-海水編

第23週 コケの種類と原因、対策について

第24週 水草育成について①-種類、育成環境

第25週 水草育成について②-維持管理

第26週 サンゴ育成について①-種類、育成環境

第27週 サンゴ育成について②-維持管理

第28週 水槽管理における淡水と海水の違い

第29週 水槽のリセットについて(半リセット含む)

第 30 週 後期内容の振り返り

第 31 週 後期試験

第 32 週 後期のまとめ・調べ学習

第 33 週 試験返却・試験の振り返り

第 34 週 好きな魚、水生生物について発表(前半組)

第 35 週 好きな魚、水生生物について発表(後半組)

授業の方法

各必要知識に対する座学講義と、地下実習室の水槽を用いた実技実習を行う。

教材

適宜必要な資料の配布を行う。

また地下実習室の水槽を教材とし日々の授業に活用する。

評価の方法

試験 40%、授業への参画 20%、課題への取り組み 40%で総合的に判断する。

授業外での学習方法

授業内容をノートにまとめる。

ノートには授業内容での疑問や質問を授業毎に 1 つ以上書くことをルールとする。

用品について調べ物学習を行う。

地下の実習水槽の管理。

実務経験と授業科目の関係

・

- 13 回 3 級の問題と解説⑩
- 14 回 問題演習①
- 15 回 問題演習②
- 16 回 試験対策
- 17 回 試験対策
- 18 回 3 級試験の対策
- 19 回 3 級試験の対策
- 20 回 3 級試験の対策
- 21 回 3 級試験の対策
- 22 回 ビオトープ管理士問題と解説①
- 23 回 ビオトープ管理士問題と解説②
- 24 回 ビオトープ管理士問題と解説③
- 25 回 ビオトープ管理士問題と解説④
- 26 回 ビオトープ管理士問題と解説⑤
- 27 回 ビオトープ管理士問題と解説⑥
- 28 回 ビオトープ管理士問題と解説⑦
- 29 回 ビオトープ管理士問題と解説⑧
- 30 回 ビオトープ管理士問題と解説⑨
- 31 回 問題演習③
- 32 回 問題演習④
- 33 回 試験対策
- 34 回 試験対策
- 35 回 1 年間の振り返り

授業の方法

講義(問題集を使用した対策)

教材

生物分類技能検定事務局『2025 年度 生物分類技能検定 試験問題集 3 級・4 級』(一般財団法人 自然環境研究センター)

『改訂 2 版 生物分類技能検定 3 級・4 級解説集』(一般財団法人 自然環境研究センター)

ビオトープ管理士

評価の方法

期末試験 60%、レポートへの取り組み姿勢 40%で総合的に評価する。

2026 年度

授業外での学習方法

試験に備え、過去の問題を繰り返し解く。

実務経験と授業科目の関係

あり

HR

授業の目的・概要

本授業では、動物業界を目指す学生が、卒業後に社会人・職業人として自立して働くために必要な知識や心構え、社会人基礎力を身につけることを目的とする。自己理解や将来の目標設定を通して、自分の適性や強みを考えるとともに、動物業界の職種や仕事内容、求められる人材について理解を深める。また、挨拶・言葉遣い・身だしなみ・報告連絡相談などの基本的なビジネスマナー、コミュニケーション、チームワーク、安全意識、職業倫理について学ぶ。さらに、履歴書作成や面接、求人票の見方など就職活動に必要な知識を身につけ、卒業後の進路を主体的に考え、行動する力を養う。

科	通信制学科	教員	長岡
コース		教員の実務経験	-
対象年次	2 年生	年間単位数	1 単位

目標

- ・動物業界で働くために必要な社会人としての基本的な心構えや職業倫理を身につける。
- ・自己理解を深め、自分の強みや適性、将来の目標を明確にし、主体的に進路を考えることができる。
- ・職場で必要となる基本的なコミュニケーション能力や社会人基礎力を身につける。
- ・就職活動に必要な履歴書・面接・求人情報の見方などの知識を身につけ、具体的に行動できる。

授業計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 2 年生としての目標設定
- 第 3 回 自己理解①—自分の強み・弱みを知る
- 第 4 回 自己理解②—興味・価値観から考える将来像
- 第 5 回 動物業界の仕事を知る①—職種と仕事内容
- 第 6 回 動物業界の仕事を知る②—働く場所と求められる人材
- 第 7 回 社会人としての基本①—挨拶・返事・言葉遣い
- 第 8 回 社会人としての基本②—身だしなみ・立ち居振る舞い
- 第 9 回 コミュニケーション①—相手の話を聴く
- 第 10 回 コミュニケーション②—報告・連絡・相談
- 第 11 回 チームワークと協働—動物業界で働くために
- 第 12 回 仕事の責任と職業倫理
- 第 13 回 動物業界で求められる安全意識
- 第 14 回 働くうえでのストレスマネジメント
- 第 15 回 前期の振り返りと後期に向けた準備

- 第 16 回 オリエンテーション
- 第 17 回 就職活動の進め方
- 第 18 回 求人票の見方と職場選び
- 第 19 回 履歴書・応募書類の基本
- 第 20 回 自己 PR を考える
- 第 21 回 志望動機を考える
- 第 22 回 面接の基本
- 第 23 回 面接練習①—受け答えと姿勢
- 第 24 回 面接練習②—想定質問への対応
- 第 25 回 電話・メール・SNS のマナー
- 第 26 回 社会人としての時間管理・スケジュール管理
- 第 27 回 職場でのトラブル・困りごとへの対応
- 第 28 回 卒業後のキャリアを考える
- 第 29 回 2 年間の学びの振り返りと成長の確認
- 第 30 回 卒業後に向けた目標設定とまとめ

授業の方法

講義。

教材

必要な資料を適宜配布していく。

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

日々の生活の中で、就職に必要なスキル(挨拶・礼儀・言葉遣い)を意識して用いて、積極的に就職活動に臨んでいく。

実務経験と授業科目の関係

・

就職対策

授業の目的・概要

本授業は、動物業界を中心とした就職活動に必要な実践的スキルと社会人基礎力を身につけることを目的とする。ジョブカード作成や自己分析を通して自身の適性や強みを理解し、面接対策や模擬面接、AI 面接演習を通じて、選考に対応できる表現力と対応力を養う。また、研修旅行の事前・事後学習を通して職場理解を深め、業界研究と自己理解の統合を図る。さらに、入退室マナー、席次、名刺交換などのビジネスマナーを実践的に学び、社会人として必要な基本行動を習得することで、就職活動に主体的に取り組む姿勢と実践力の向上を目指す。

科	通信制学科	教員	荻野
コース	-	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	数	1 単位

目標

選考において動作・礼儀などのパフォーマンスを最大限に発揮し内定を獲得する。

頻出質問・業界特有質問の回答が適切に行えるように実践的に模擬面接や AI シミュレーションなどを用い準備を行うことができる。

授業計画

- 1 回 自己紹介、アイスブレイク
- 2 回 面接対策(頻出質問の紹介と対策)、ジョブカード作成(自己分析)
- 3 回 面接対策(業界特有の質問紹介と対策)、ジョブカード作成ジョブカード作成(自己分析)
研修旅行事前学習①—訪問先・施設調べ (グループワーク)
- 4 回 AI 面接アプリ紹介と対策
研修旅行事前学習②—就職先として見る視点・質問検討
- 5 回 AI 面接実践期間①
研修旅行事後学習①—見学内容の整理と共有
- 6 回 AI 面接実践期間②
研修旅行事後学習②—就職先としての魅力と課題
- 7 回 第 1 回模擬面接実践期間①
研修旅行事後学習③—就職先比較と理解の深化
- 8 回 第 1 回模擬面接実践期間②
- 9 回 入退室のマナーについて

- 10 回 入退室実践期間①
- 11 回 入退室実践期間②
- 12 回 入退室実践期間③
- 13 回 第 2 回模擬面接実践期間①
- 14 回 第 2 回模擬面接実践期間②
- 15 回 第 2 回模擬面接実践期間③
- 仕事内容理解①—就職先に想定される職種（含 研修旅行事前学習）
- 16 回 前期の振り返り
- 17 回 試験
- 18 回 第 3 回模擬面接実践期間①
- 仕事内容理解②—職種別業務内容（含 研修旅行事前学習）
- 19 回 第 3 回模擬面接実践期間②
- 仕事内容理解③—1 日の仕事の流れ（含 研修旅行事前学習）
- 20 回 第 3 回模擬面接実践期間③
- 仕事内容理解④—必要な知識・技術・姿勢（含 研修旅行事前学習）
- 21 回 第 4 回模擬面接実践期間①
- 研修旅行事後学習①—仕事内容の整理
- 22 回 第 4 回模擬面接実践期間②
- 研修旅行事後学習②—仕事のやりがい・大変さ
- 23 回 第 4 回模擬面接実践期間③
- 研修旅行事後学習③—自分との適性を考える
- 24 回 席次①(座学)
- 25 回 席次②(座学)
- 26 回 席次③(実践)
- 27 回 席次④(実践)
- 28 回 名刺交換①(座学)
- 29 回 名刺交換②(座学)
- 30 回 名刺交換③(実践)
- 31 回 名刺交換④(実践)
- 32 回 後期の振り返り
- 33 回 後期試験
- 34 回 総復習、振り返り①
- 30 回 総復習、振り返り②

授業の方法

実戦経験を積むために就職や今後のキャリア形成に繋がる訓練を繰り返し行う。

教材

自作プリントを必要に応じて配布する。

評価の方法

試験 50%、レポートの取り組み姿勢 50%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

面接質問の回答をノートに書き出しまとめる。

実務経験と授業科目の関係

あり

経営概論

授業の目的・概要

本授業は、動物関連ビジネスにおいて必要となる基礎的な経営知識の習得を目的とする。前半では経営理念や戦略の基本概念、環境分析（マクロ・ミクロ環境、SWOT 分析）を通じて、企業活動の構造的な理解を深める。また成長戦略や事業ポートフォリオの考え方を学び、企業の持続的発展について理解する。中盤では売上管理に関する基礎として、客数・客単価の構造的な理解や KPI 設定、データ分析と改善手法を実践的に学習する。後半ではマーケティングの基本概念から STP 分析、4P、顧客価値などを体系的に学び、グループワークを通じて実践的な企画・分析力を養うことで、現場で活用できる経営的思考力を身につける。

科	通信制学科	教員	津田
コース	-	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位数	2 単位

目標

前期

- ・経営戦略を学習し、企業活動・経営活動の意義・意味を理解することができる。
- ・企業活動の方向性、成長戦略、競争戦略 の諸理論の理解を通して、現状を把握し、その状況を打開するための下地を構築することができる。

後期

- ・マーケティングを学習し、それらを実施していくうえでの重要ポイントの網羅と、それぞれのポイントが有機的に連携する重要性を理解することができる。
- ・経営や業務遂行のための実践的な知識・思考を身に付けることができる。

授業計画

- 1回 経営戦略について(目標・授業・評価方法説明)
- 2回 経営戦略(経営理念、企業のこだわり、理念と戦略)
- 3回 経営戦略(経営理念、理念と業務、理念と優先順位)
- 4回 経営戦略(環境分析、マクロ環境とミクロ環境、日本特有の環境)
- 5回 経営戦略(環境分析、SWOT 分析)
- 6回 成長戦略(成長ベクトル、企業成長の過程)
- 7回 成長戦略(多角化戦略、さらなる成長のために)
- 8回 成長戦略(事業ポートフォリオ、事業と資金の循環)
- 9回 成長戦略(事業ポートフォリオ、経験の成果と製品の循環)
- 10回 成長戦略(内部成長方式と外部成長方式、自己成長、提携)
- 11回 売上管理(売上の構造理解、売上＝客数×客単価の考え方)
- 12回 売上管理(客数・客単価の分析方法、改善の考え方)
- 13回 売上管理(簡単な数値計算と目標設定、KPI の基礎)
- 14回 売上管理(演習：売上データを用いた分析と改善案の検討)
- 15回 前期の振り返り
- 16回 前期試験
- 17回 マーケティングについて(基本概念と目的)
- 18回 マーケティングと販売の違い(役割の違いと関係性)
- 19回 一般的なマーケティングの流れ(市場調査～販売までのプロセス)
- 20回 マーケティング(STP 分析)
- 21回 マーケティング(水平思考)
- 22回 グループディスカッション(成功している店舗の特徴検討まとめ)
- 23回 グループディスカッション(売上向上のための施策検討まとめ)
- 24回 マーケティング(顧客価値について)
- 25回 マーケティング(4P について)
- 26回 マーケティング(バリュープロポジションについて)
- 27回 マーケティング(普及率 16%について)
- 28回 グループディスカッション(ターゲット設定と商品企画の検討)
- 29回 グループディスカッション(4P 用いた販売戦略の検討)
- 30回 グループディスカッション(グループ内での意見整理と全体共有)
- 31回 後期の振り返り
- 32回 後期試験
- 33回 1年間の振り返り①
- 34回 1年間の振り返り②
- 35回 学びを社会人として活かす方法

授業の方法

課題の取り組みを中心とするが、個別での質問等も受け付けていく。

教材

必要に応じて資料を配布していく。

評価の方法

試験 60%、レポートへの取り組み姿勢 40%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、授業で扱う経営用語や事例について教科書や配布資料を用いて概要を確認し、自身のアルバイト経験や身近な店舗運営と関連づけて考察する。事後学習では、授業内容をノートや資料で復習し、分析手法やマーケティング理論を用いて身近な企業・店舗を観察し、理解の定着と実践的思考力の向上を図る。

実務経験と授業科目の関係

-

接客演習Ⅱ

授業の目的・概要

本授業は、動物関連施設やペット業界における接客業務の基礎知識と実践力を身につけ、顧客対応力を養うことを目的とする。接客の基本となる第一印象や表情、カーミングシグナルの理解を通して相手の気持ちを読み取る力を育成する。また、売り場の見方や商品配置、色彩の効果などを学び、顧客視点に立った空間づくりや販売促進の方法を理解する。さらに、声かけや電話対応、POP作成、イベント企画などの実践的な演習を通じて、商品やサービスの魅力を効果的に伝える表現力を養う。クレーム対応や倫理的な販売についても学び、信頼される接客技術の習得を目指す。

科	通信制学科	教員	津田
コース	-	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位数	1単位

目標

- ・人と接する中で意識すべきことを知り、接客に役立てることができる。
- ・売り場を知り、効果的な販売を知ることができる。
- ・POPについて理解し、活用できるようになる。
- ・イベント企画の流れを知ることができる。

授業計画

- 第1回 自己紹介
- 第2回 授業の説明・導入
- 第3回 接客とは（人と接するということ）
- 第4回 第一印象
- 第5回 人の表情
- 第6回 人のカーミングシグナルから読み取る相手の気持ち
- 第7回 しょっぱい（売り場を見る）お客様の目線
- 第8回 グループワーク（しょっぱいを見て）
- 第9回 色を与える印象
- 第10回 人の脳と接客の関係
- 第11回 売場作成について（配置・並べ方）
- 第12回 販売のコツ・声かけ・呼び込み・ピラ配り

- 第 13 回 店内での受付
- 第 14 回 電話での予約受付・電話での案内
- 第 15 回 前期の振り返り
- 第 16 回 前期試験
- 第 17 回 しょっぴいの店員としての心構え
- 第 18 回 しょっぴい（売り場を見る）店員の目線
- 第 19 回 年間行事・効果的なセールの開催法
- 第 20 回 商品の魅力
- 第 21 回 POP とは
- 第 22 回 POP（文字練習）①
- 第 23 回 POP（文字練習）②
- 第 24 回 POP（作成のコツ）
- 第 25 回 POP 作成①
- 第 26 回 POP 作成②
- 第 27 回 フォトブースの活用
- 第 28 回 効果的なイベント開催法①
- 第 29 回 効果的なイベント開催法②
- 第 30 回 悪徳な販売・クレーム対応
- 第 31 回 後期振り返り
- 第 32 回 後期試験
- 第 33 回 1 年間の総まとめ①
- 第 34 回 1 年間の総まとめ②
- 第 35 回 接客とは

授業の方法

演習

教材

必要に応じてプリントを配布

評価の方法

期末試験 60%、課題への取り組み 40%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業内で出される課題をノートで提出

2026 年度

実務経験と授業科目の関係

*

簿記

授業の目的・概要

本授業では、簿記の基本原則から企業の財務諸表作成までの一連の会計処理を体系的に理解し、経済活動を数値的に把握する能力を身につけることを目的とする。簿記の意義や取引の仕訳、商品売買や現金・預金、手形取引などの基本的処理を学び、帳簿記録の基礎を習得する。また、試算表や決算整理、精算表の作成を通して、企業の経営成績や財政状態を正しく読み取る力を養う。さらに、経過勘定や減価償却、貸倒れ処理などの決算整理項目について理解を深め、実践的な会計処理能力を身につける。授業全体を通して、問題演習を繰り返し行うことで検定試験への対応力を高め、動物業界を含む幅広い職種において求められる基礎的なビジネス会計力を養う。

科	通信制学科	教員	長岡
コース	-	教員の実務経験	-
対象年次	2 年	年間単位数	3 単位

目標

- ・簿記 3 級の検定合格を目指すことができる。
- ・取引の記録・計算・整理など、基本的な会計処理の方法を理解し、正確に処理する力を身につける。
- ・財務諸表を読み取り、経営状況を把握・分析する基礎的な能力を身につける。
- ・試算表・精算表・財務諸表を作成できるようになる。

授業計画

第 1 週目 簿記の意義／財務諸表と簿記の 5 要素／問題演習

第 2 週目 日常の手続き／商品売買①／商品売買②／問題演習

第 3 週目 現金・預金／小口現金／クレジット買掛金／問題演習

第4週目 手形取引／電子記録債権・債務／問題演習

第5週目 その他の取引①／その他の取引②／問題演習

第6週目 その他の取引③／さまざまな帳簿の関係／問題演習

第7週目 まとめ①／問題演習

第8週目 試算表／決算／問題演習

第9週目 まとめ②／問題演習

第10週目 決算整理①売上原価／問題演習

第11週目 決算整理②現金化不足／問題演習

第12週目 決算整理③貸倒れ／問題演習

第13週目 決算整理④減価償却／問題演習

第14週目 決算整理⑤貯蔵品／問題演習

第15週目 決算整理⑥当座借越／問題演習

第16週目 仕訳問題

第17週目 前期の振り返り

第18週目 前期試験

第19週目 決算整理⑦経過勘定科目／問題演習

第20週目 まとめ③／問題演習

第21週目 決算整理後残高試算表／精算表／問題演習

第22週目 まとめ④／問題演習

第23週目 帳簿の締め切り（英米式決算）／問題演習

第24週目 まとめ⑤／問題演習

第25週目 損益計算書と貸借対照表／問題演習

第26週目 まとめ⑥／問題演習

第27週目 株式の発行／過剰金の配当と処分／税金／問題演習

第28週目 証ひょう／伝票／問題演習

第29週目 まとめ⑦／問題演習

第 30 週目 検定対策①／問題演習

第 31 週目 検定対策②／問題演習

第 32 週目 検定対策③／問題演習

第 33 週目 後期の振り返り

第 34 週目 後期試験

第 35 週目 1 年間の総まとめ

授業の方法

演習

教材

TAC 出版 合格テキスト 日商簿記 3 級／必要に応じてプリントを配布

評価の方法

期末試験 60%、課題への取り組み 40%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

プリント・課題・問題集の中で、していたれた範囲まで行い提出する

実務経験と授業科目の関係

・

コンピューター実習Ⅱ

授業の目的・概要

本授業では、実務現場で多用される Excel の参照関数（VLOOKUP 等）やピボットテーブルを用いたデータ分析、および PowerPoint のスライドマスター機能を駆使した高度な資料作成術を教授する。

科	通信制学科	教員	伊藤
コース	-	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位数	2 単位

目標

- **Microsoft Excel：データ分析と効率化**

VLOOKUP/HLOOKUP や IF 関数とピボットテーブルでの作業効率化とデータ分析を伝授。

- **Microsoft PowerPoint：構造的デザインと表現**

スライドマスターとマルチメディア挿入での統一感のある「動的なプレゼン」技法を用いて伝授

授業計画

前期

- 第 0 1 回：オリエンテーリング（1）授業概要、評定基準、Google 共有ドライブの使い方
- 第 0 2 回：Excel 年次振り返り（1）表作成、オート SUM 関数による計算、条件付き書式
- 第 0 3 回：Excel 年次振り返り（2）グラフの作成（円、棒、複合グラフ、ヒストグラム）
- 第 0 4 回：Excel テーブル機能、抽出、フィルター
- 第 0 5 回：Excel ピボットテーブル
- 第 0 6 回：Excel ピボットグラフ
- 第 0 7 回：Excel ピボットテーブル、ピボットグラフの振りかえり
- 第 0 8 回：Excel 応用関数（1）IF 関数
- 第 0 9 回：Excel 応用関数（2）AND 関数、OR 関数、NOT 関数
- 第 1 0 回：Excel 応用関数（3）VLOOKUP 関数
- 第 1 1 回：応用関数（4）IF 関数と VLOOKUP 関数のネスト
- 第 1 2 回：応用関数（4）HLOOKUP 関数
- 第 1 3 回：応用関数振り返り：IF 関数、VLOOKUP 関数、HLOOKUP 関数
- 第 1 4 回：応用関数（5）文字列関数
- 第 1 5 回：前期期末試験対策講座

第 16 回 :前期期末試験

第 17 回 :自宅課題 : VLOOKUP 関数についてレポートにまとめる

第 18 回 :前期期末試験の返却

後期

第 19 回 :後期授業概要、評定基準、スライドショー

第 20 回 :PowerPoint オリジナルスライドを作ろう！(スライドマスター、フォント、テーマ)

第 21 回 :PowerPoint ブレースホルダー内の書式設定(フォントの変更、色、行間、箇条書き)

第 22 回 :PowerPoint スライドに表を作成しよう！

第 23 回 :PowerPoint スライドにグラフを作成しよう！

第 24 回 :PowerPoint 卒業研究発表に役立つ画像データと SmartArt

第 25 回 :PowerPoint グラフィック機能のまとめ

第 26 回 :PowerPoint YouTube 動画とストック動画の挿入方法

第 27 回 :PowerPoint マルチメディア機能のまとめ

第 28 回 :発表作品制作①フォント、行間、箇条書きについて

第 29 回 :発表作品制作②プレゼンテーション作成、シナリオ作成

第 30 回 :発表作品制作③リハーサル

第 31 回 :プレゼンテーション発表

第 32 回 :プレゼンテーション発表

第 33 回 :プレゼンテーション発表

第 34 回 :プレゼンテーション発表

第 35 回 :プレゼンテーション発表

授業の方法

コンピューター演習

教材

自作プリントを随時配布する。

評価の方法

試験 60%、課題への取り組み姿勢 40%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

日ごろから PC に触れ、他科目も含めた課題への取り組みを通じ、スキル向上を図っていく。

実務経験と授業科目の関係

2026 年度

あり

インターンシップⅡ

授業の目的・概要

本授業は、動物業界への就職を目指す学生が、インターンシップを通じて実際の職場環境を体験し、専門知識・技術の実践力を養うことを目的とする。動物病院、ペットショップ、トリミングサロン、ペットホテル、動物福祉施設などの現場において、動物の飼養管理や健康観察、接客対応、衛生管理、チームでの業務遂行などを経験し、職業人として求められる責任感やコミュニケーション能力を身に付ける。また、現場での体験を通じて自己の適性や課題を把握し、将来の進路選択や就職活動に役立てることを目指す。事前指導では職業倫理や安全管理について学び、実習後には振り返りと成果報告を行うことで、学習成果の定着とキャリア形成につなげる。

科	通信制学科	教員	林
コース	・	教員の実務経験	○
対象年次	2 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・動物業界の現場における業務内容や役割を理解し、基本的な業務を適切に実践できる。
- ・動物の飼養管理、健康観察、衛生管理などに関する実践的な知識・技術を身に付ける。
- ・職業人として必要なビジネスマナー、コミュニケーション能力、協調性を身に付け、円滑に行動できる。
- ・インターンシップで得た経験を振り返り、自身の適性や課題を把握するとともに、将来の進路選択や就職活動に活かすことができる。

授業計画

- 第1回 インターンシップ概要説明・目的理解・受入先の紹介
- 第2回 ビジネスマナー・職業倫理・安全管理・注意事項説明
- 第3回 インターンシップ① 施設理解とオリエンテーション

第 4 回	インターンシップ②	施設見学と業務内容の把握
第 5 回	インターンシップ③	接客・来客対応の補助
第 6 回	インターンシップ④	電話対応・受付業務の補助
第 7 回	インターンシップ⑤	施設内清掃・衛生管理業務
第 8 回	インターンシップ⑥	飼育環境の整備と安全確認
第 9 回	インターンシップ⑦	動物の健康観察と記録
第 10 回	インターンシップ⑧	給餌・給水業務の補助
第 11 回	インターンシップ⑨	動物の保定補助
第 12 回	インターンシップ⑩	日常ケア業務の補助
第 13 回	インターンシップ⑪	施設備品・消耗品管理
第 14 回	インターンシップ⑫	顧客対応・コミュニケーション実践
第 15 回	インターンシップ⑬	チーム業務への参加
第 16 回	インターンシップ⑭	担当業務の実践①
第 17 回	インターンシップ⑮	担当業務の実践②
第 18 回	インターンシップ⑯	担当業務の実践③
第 19 回	インターンシップ⑰	担当業務の実践④
第 20 回	インターンシップ⑱	担当業務の実践⑤
第 21 回	インターンシップ⑲	担当業務の実践⑥
第 22 回	インターンシップ⑳	担当業務の実践⑦
第 23 回	インターンシップ㉑	担当業務の実践⑧
第 24 回	インターンシップ㉒	担当業務の実践⑨
第 25 回	インターンシップ㉓	担当業務の実践⑩
第 26 回	インターンシップ㉔	担当業務の実践⑪
第 27 回	インターンシップ㉕	担当業務の実践⑫
第 28 回	インターンシップ㉖	担当業務の実践⑬
第 29 回	インターンシップ㉗	担当業務の実践⑭
第 30 回	インターンシップ㉘	担当業務の実践⑮

- 第 31 回 インターンシップ②③ 担当業務の実践⑥
 第 32 回 インターンシップ②③ 担当業務の実践⑦
 第 33 回 インターンシップ②③ 担当業務の実践⑧
 第 34 回 インターンシップ②③ 総合実践・就業力向上
 第 35 回 インターンシップ成果報告会・振り返り・自己評価と今後の課題整理

授業の方法

インターンによる実践。

教材

必要な資料を概要説明時に配布する。

評価の方法

インターンへの参加意欲 20%、企業の評価 50%、レポート提出 30%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、受入先の業務内容や業界動向について調べるとともに、ビジネスマナーや安全管理、動物の飼養管理に関する基礎知識を復習する。事後学習では、実習日誌や記録を整理し、実習で得た知識・技術や課題を振り返ることで理解を深め、今後の学習や就職活動に活かす。

実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、インターンシップにおける職業意識の形成や社会人基礎力の向上を支援するとともに、実習経験を将来の進路選択や就職活動につなげるための指導を行う。

特別活動Ⅱ

授業の目的・概要

学校行事への参加を通じて、専門分野への理解を深めるとともに、協調性や主体性、社会性を養う。各種行事における事前準備、参加、振り返りを通じて学びを深化させ、将来の職業人として必要な資質の向上を目指す。

科	通信制学科	教員	林
コース	-	教員の実務経験	○
対象年次	2 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・学校行事の目的や意義を理解し、主体的に参加できる。
- ・行事を通じて専門分野への理解を深め、学びを実践に結び付けることができる。
- ・他者と協力しながら活動に取り組み、協調性や社会性を身に付ける。
- ・行事で得た経験を振り返り、自己の成長や課題を今後の学習・進路選択に活かすことができる。

授業計画

- 第 1 回 特別活動の目的と年間計画の理解
- 第 2 回 学校行事に参加する意義と学習目標の設定
- 第 3 回 研修旅行事前学習①（研修目的の理解）
- 第 4 回 研修旅行事前学習②（訪問先・業界研究）
- 第 5 回 研修旅行事前学習③（グループ活動計画の作成）
- 第 6 回 研修旅行事前学習④（安全管理・マナーの確認）
- 第 7 回 研修旅行事前学習⑤（事前調査の共有）
- 第 8 回 研修旅行への参加①
- 第 9 回 研修旅行への参加②

- 第 10 回 研修旅行振り返り①（体験内容の整理）
- 第 11 回 研修旅行振り返り②（学習成果の共有）
- 第 12 回 校外実習事前学習①（実習目的の理解）
- 第 13 回 校外実習事前学習②（実習先研究）
- 第 14 回 校外実習事前学習③（安全管理とマナー）
- 第 15 回 校外実習事前学習④（学習課題の設定）
- 第 16 回 校外実習への参加①
- 第 17 回 校外実習への参加②
- 第 18 回 校外実習振り返り①（活動内容の整理）
- 第 19 回 校外実習振り返り②（成果と課題の分析）
- 第 20 回 KAP エキスポ事前学習①（イベントの目的と業界動向の理解）
- 第 21 回 KAP エキスポ事前学習②（企業研究・出展内容の確認）
- 第 22 回 KAP エキスポ事前学習③（見学計画の作成）
- 第 23 回 KAP エキスポ事前学習④（質問事項の作成）
- 第 24 回 KAP エキスポへの参加①
- 第 25 回 KAP エキスポへの参加②
- 第 26 回 KAP エキスポ振り返り①（見学内容の整理）
- 第 27 回 KAP エキスポ振り返り②（学習成果の共有）
- 第 28 回 卒業研究発表会事前学習①（研究テーマの理解）
- 第 29 回 卒業研究発表会事前学習②（発表の着眼点と評価方法）
- 第 30 回 卒業研究発表会事前学習③（専門知識の整理）
- 第 31 回 卒業研究発表会への参加①
- 第 32 回 卒業研究発表会への参加②
- 第 33 回 卒業研究発表会振り返り・学習成果の共有
- 第 34 回 年間活動の総括（自己評価・今後の目標設定）
- 第 35 回 社会人への準備と決意

演習形式で進めていき、グループワークや意見交換を積極的に取り入れていく。

教材

特にないが、必要に応じて資料を配布していく。

評価の方法

授業への参画 30%、成果発表 50%、レポート提出 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、各行事の目的や内容、関連する業界・専門知識について調査し、学習課題を明確にする。
事後学習では、活動記録やレポートを作成し、得られた知識や気づきを整理するとともに、自身の成長や課題を振り返り、今後の学習や進路形成に活かす。

実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、各種学校行事への参加を通じた主体的な学びや職業意識の形成を支援する。また、活動前後の目標設定や振り返りを通じて、行事で得た経験を自己成長やキャリア形成につなげられるよう指導を行う。

動物基礎演習 II

授業の目的・概要

将来向き合うことになる動物たちの身体の仕組み・生態・疾患を理解するうえで必要な生物学の基礎知識を学ぶ。また、愛玩動物看護師国家試験の出題範囲に対応した問題演習を並行して行うことで自信を持って国家試験に臨める土台作りを行う。

科	通信制学科	教員	姉崎
コース	-	教員の実務経験	-
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

生物学の中でも、獣医療の基礎となる動物形態機能学に則した、細胞の仕組みと働き、遺伝情報、動物の体内環境、動物の反応と行動、に関する分野を理解し、知識として応用できるようにする。

授業計画

【前期】

- 第 1 回 光学顕微鏡の構造と名称、顕微鏡の種類と特徴
- 第 2 回 細胞と細胞膜の構造
- 第 3 回 細胞小器官の名称と役割
- 第 4 回 動物の組織、器官系
- 第 5 回 遺伝情報 (DNA、RNA)
- 第 6 回 体細胞分裂
- 第 7 回 減数分裂
- 第 8 回 遺伝情報の発現 1 (転写～スプライシング)
- 第 9 回 遺伝情報の発現 2 (翻訳～タンパク質の合成)
- 第 10 回 ホメオスタシスと体内の情報伝達

第11回 体性神経と自律神経

第12回 自然免疫

第13回 獲得免疫1(体液性免疫)

第14回 獲得免疫2(細胞性免疫)

第15回 エイズ、アレルギー

第16回 前期試験

第17回 前期のまとめ・調べ学習

第18回 試験返却・試験の振り返り / 生体物質

【後期】

第19回 代謝とATP

第20回 消化系

第21回 骨格系と愛玩動物の椎骨式

第22回 筋肉系1(筋の種類と収縮)

第23回 筋肉系2(骨格筋の各名称)

第24回 外皮系

第25回 循環器系

第26回 呼吸器系と肝臓

第27回 泌尿器系

第28回 感覚器1(視覚)

第29回 感覚器2(聴覚、平衡覚)

第30回 感覚器3(嗅覚、味覚、皮膚感覚)

第31回 後期試験

第32回 後期のまとめ・調べ学習

第33回 試験返却・試験の振り返り

第34回 内分泌系(内分泌腺)

第35回 内分泌系(主なホルモン)

授業の方法

黒板への板書。必要に応じてプリントの配布を行い追加の説明を行う。

また単元ごとに、国家試験形式の問題演習を数問実施する。

教材

二訂版ニューステージ生物図表（株式会社浜島書店、発行 2024 年 2 月 5 日、ISBN 978-4-8343-4017-4）

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 1 巻(株式会社 EDUWARD Press、発行 2023 年 7 月 31 日、ISBN 978-4-86671-155-3)

評価の方法

試験 60%、レポートへの取り組み姿勢 40%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習: シラバスを確認し次回の授業内容の予習を行う。

事後学習: 授業後半に配る問題演習とその復習を行う。

実務経験と授業科目の関係

・

卒業研究演習

授業の目的・概要

本授業は、自らの経験や考えを他者に伝える力を育成することを目的とする。授業科目名に「研究」を含むことから、情報収集の方法や複数の意見の比較を通して、課題の発見と簡単な考察を行う体験も取り入れる。ただし高度な研究活動は求めず、生徒の実態に配慮し、段階的な活動を通して無理なく取り組める内容とする。最終的には、自身の学びや将来の目標を整理し、発表として表現することで、進路選択や面接に活かせる基礎的な力の育成を目指す。

科	通信制学科	教員	長岡
コース	-	教員の実務経験	-
対象年次	2 年	年間単位時間	2 単位

目標

- ・興味のあるテーマについて情報を収集し、複数の内容を比較することができる。
- ・比較した内容をもとに、自分の考えや意見をまとめることができる。
- ・自分の学びや将来の目標について、相手に伝わるように発表することができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（授業目的／ゴール共有）
- 第2回 3年間の振り返り①（印象に残った授業・実習を書き出す）
- 第3回 振り返り②（「なぜ印象に残ったか」を言語化）
- 第4回 振り返り③（他者と共有）
- 第5回 テーマ例の提示（動物系テーマ）
- 第6回 テーマ仮決定（教員と相談）
- 第7回 テーマ確定（無理のない内容に調整）
- 第8回 調べ方①（検索ワードの工夫）

第 9 回 調べ方②（良い情報／よくない情報の違い）

第 10 回 情報収集①（1 つ目の情報）

第 11 回 情報収集②（比較の準備）

第 12 回 比較とは何か

第 13 回 比較実践（A と B の違いを書く）

第 14 回 問題の発見（「なぜ？」の重要性）

第 15 回 自分の意見形成

第 16 回 前期試験

第 17 回 課題

第 18 回 試験返却・フィードバック

第 19 回 オリエンテーション（後期）

第 20 回 発表構成①（「導入→本論→まとめ」）

第 21 回 発表構成②（自分の内容に当てはめる）

第 22 回 スライド作成①

第 23 回 作成②（視覚的にわかりやすく）

第 24 回 作成③（文章を短くする練習）

第 25 回 話し方①（声と姿勢）

第 26 回 話し方②（短いスピーチ練習）

第 27 回 中間発表①

第 28 回 中間発表②（フィードバック）

第 29 回 改善①（内容修正）

第 30 回 改善②（資料修正）

第 31 回 リハーサル①（通し練習）

第 32 回 リハーサル②（個別指導）

第 33 回 後期試験

第 34 回 課題第

第 35 回 総括

授業の方法

演習形式で進めていくが、適宜講義形式を取り入れて、知識も身に付けさせていく。

教材

授業中に適宜配布していく。

評価の方法

試験(発表)60%、レポートへの取り組み姿勢 40%で評価する。

授業外での学習方法

事前学習として、研究テーマに掲げた先行研究を読み、要旨をノートにまとめておくこと。事後学習は、授業内で実施した文献の比較検討や実習結果についてをノートにまとめておくこととする。

実務経験と授業科目の関係

・

エキゾチックアニマルⅡ

(授業概要)

エキゾチックアニマルの生態・習性・飼育管理に関する基礎知識を習得し、各動物種に応じた適切な取り扱いができる能力を身につけることを目的とする。これにより、動物関連業界への就職に必要な実践的知識の基盤を養う。

科	通信制学科	教員	伊勢
コース	-	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位数	1単位

目標

前期

- ・エキゾチックアニマル（チンチラ、デグー、ハリネズミ）について、分類・歴史・生態・特徴を理解することができる。
- ・適切な飼育管理、繁殖および代表的な疾病に関する基礎知識を習得することができる。
- ・各動物種の特性に応じた取り扱いができる基礎的な判断力を身につける。

後期

- ・エキゾチックアニマル（フクロモモンガ、シマリス、プレーリードッグ、リチャードソンジリス、鳥類）についての理解を深め、より専門性の高い飼育管理および健康管理に関する知識を習得することができる。
- ・複数種に対応できる応用的な知識と判断力を養い、動物関連業界において実務に活かせる対応力を身につけることができる。

授業計画

- 1回 チンチラ①—分類、歴史について
- 2回 チンチラ②—体の特徴について
- 3回 チンチラ③—生理的な特徴について
- 4回 チンチラ④—飼育方法について
- 5回 チンチラ⑤—繁殖、病気について
- 6回 デグー①—分類、歴史について
- 7回 デグー②—体の特徴について
- 8回 デグー③—生理的な特徴について

- 9回 デグー④—飼育方法について
- 10回 デグー⑤—繁殖、病気について
- 11回 ハリネズミ①—分類、歴史について
- 12回 ハリネズミ②—体の特徴についてについて
- 13回 ハリネズミ③—生理的な特徴について
- 14回 ハリネズミ④—飼育方法について
- 15回 ハリネズミ⑤—繁殖、病気について
- 16回 前期の振り返り
- 17回 前期試験
- 18回 フクロモモンガ①—分類、歴史について
- 19回 フクロモモンガ②—体の特徴について
- 20回 フクロモモンガ③—生理的な特徴について
- 21回 フクロモモンガ④—飼育方法について
- 22回 フクロモモンガ⑤—繁殖、病気について
- 23回 シマリス①—分類、歴史について
- 24回 シマリス②—体・生理的な特徴について
- 25回 シマリス③—飼育方法について
- 26回 シマリス④—繁殖、病気について
- 27回 ブレーリードッグ、リチャードソン・ジリス①—分類、歴史、特徴について
- 28回 ブレーリードッグ、リチャードソン・ジリス②—飼育、繁殖、病気について
- 29回 鳥類①—種類について
- 30回 鳥類②—特徴について
- 31回 鳥類③—飼育について
- 32回 鳥類④—病気について
- 33回 後期の振り返り
- 34回 後期試験
- 35回 1年間の総まとめ

授業の方法

講義

教材

『カラーアトラスエキゾチックアニマル 哺乳類編 第3版—種類・生態・飼育・疾病—』

著：霍野 晋吉、横須賀 誠 出版社：緑書房

『カラーアトラスエキゾチックアニマル 鳥類編 第2版—種類・生態・飼育・疾病—』

著：霍野 晋吉 出版社：緑書房

評価の方法

試験 60%、課題への取り組み 40%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

次の単元のキーワードになると思うページ数を指定し、予め調べてノートにまとめておくことを事前学習とする。また、事後学習として、授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。

実務経験と授業科目との関係

あり

飼育用品概論Ⅱ

授業の目的・概要

犬、猫、爬虫類、昆虫など各動物種の飼育に必要な用品について理解することを目的とする。各用品の種類や特徴、使用目的について学び、動物の特性に応じた適切な選択および使用方法を習得する。また、現場での活用を見据え、飼育環境の整備や顧客への提案に必要な実践的知識を身につけ、動物関連業界への就職に対応できる基礎力の養成を図る。

科	通信制学科	教員	津田
コース	-	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位数	1単位

目標

前期

- ・両生爬虫類の飼育に必要な用品の種類や特徴、使用目的について理解することができる。
- ・各動物の生態や特性に応じた適切な用品の選択および使用方法を習得し、飼育環境の整備に必要な基礎知識を身につける。

後期

- ・昆虫および犬、猫の飼育に必要な用品について理解を深め、各動物種に適した用品の選択および活用方法を習得することができる。
- ・動物の健康や福祉に配慮した飼育環境の構築ができる知識を身につける。

授業計画

- 1回 アイスブレイク/飼育用品概論Ⅰの復習
- 2回 昼行性の爬虫類
- 3回 夜行性爬虫類
- 4回 爬虫類用品：ケージ
- 5回 両生類用品：ケージ
- 6回 両生爬虫類用品：シェルター
- 7回 両生爬虫類用品：床材
- 8回 両生爬虫類用品：保温器具
- 9回 両生爬虫類用品：保冷器具
- 10回 両生爬虫類用品：ライト（紫外線）
- 11回 両生爬虫類用品：ライト（バスキング）
- 12回 両生爬虫類用品：メンテナンスについて（爪切り・温浴）

- 13回 両生爬虫類用品：給水器、餌皿
- 14回 両生爬虫類用品：草食動物のフード
- 15回 両生爬虫類用品：肉食・雑食動物フード
- 16回 両生爬虫類用品：サプリメント
- 17回 爬虫類の販売形態について
- 18回 前期の振り返り
- 19回 前期試験
- 20回 系統とモルフについて
- 21回 ペット保険について
- 22回 爬虫類の病気と診察
- 23回 昆虫用品：カブトムシ・クワガタムシの生体について
- 24回 昆虫用品：カブトムシ・クワガタムシの飼育
- 25回 昆虫用品：カブトムシ・クワガタの飼育に必要な用品
- 26回 昆虫用品：スズムシ・ヤドカリの生体について
- 27回 昆虫用品：スズムシ・ヤドカリの飼育方法・飼育に必要な用品
- 28回 犬猫用品：ケージ、キャットタワー
- 29回 犬猫用品：サークル、キャリー
- 30回 犬猫用品：食器、給水器
- 31回 犬猫用品：おもちゃ、首輪、リード
- 32回 犬猫用品：お手入れグッズ(歯ブラシ、爪切り)
- 33回 後期の振り返り
- 34回 後期試験
- 35回 1年間のまとめ

授業の方法

講義

教材

授業で使用する教材については、必要に応じて授業中に適宜配布していく。

評価の方法

試験 60%、課題への取り組み 40%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業でまとめたノートを参考に、ペットショップや動物園等において実際の用品を観察し、各動物種に応じた用品の選択や配置について考察する。さらに、関連する資料や文献、インターネットを活用し、飼育環境に関する知識を主体的に補完する。

実務経験と授業科目の関係
あり

コンパニオンドッグⅡ

授業の目的・概要

犬に関わる職業において必要な犬種ごとの特徴や対応を学び、犬を理解するとともに、将来の仕事において、お客様への情報提供やサービス、接客にて役立つ知識として習得する。また、実習においてこの授業で得た基礎知識を応用し、実際に犬と関わるうえで犬の扱い方や適切な対応を考えて、実践として繋げて経験値を高め、就職した際、犬との関係性構築に役立てる。

科	通信制学科	教員	福田
コース	-	教員の実務経験	トリマー1年
対象年次	2年	年間単位数	1単位

目標

- ・JKCでのグループ分けを学ぶ。特性などを学び全10グループの違いを説明できるようになる。
- ・人気犬種（約種）犬の写真を見て犬種名、それぞれの犬種の特徴（外見の特徴、性格、歴史、飼育環境、健康管理、行動特性）などを学び、外見を見て犬種名、犬種の特徴を一般の方が理解できるレベルで説明できるようになる。

授業計画

- 第1回 ブリュッセル・グリフォン、バセット・ハウンド
- 第2回 オーストラリアンシェパード、甲斐
- 第3回 サルーキ、オールドイングリッシュシェパード
- 第4回 ケアンテリア、日本テリア
- 第5回 イングリッシュ・スプリンガー、ハバニーズ
- 第6回 四国、ウェルッシュ・テリア
- 第7回 プチブラバソン、レオンヘルガー
- 第8回 北海道、スキッパーキ

- 第9回 エアデールテリア、パセンジー
- 第10回 レークランド・テリア、ノーリッチ・テリア
- 第11回 アラスカンマラミュート、アフガンハウンド
- 第12回 ベルジアングリフォン、ベルジアン・シェパード・ドッグ・マリノア
- 第13回 紀州、スタッフォード・ブル・テリア
- 第14回 ジャーマンピンシャー・ウェルシュコーギーカーディガン
- 第15回 ピアデットコリー、ケリーブルテリア
- 第16回 前期の振り返り
- 第17回 前期試験
- 第18回 シャーペイ、ミニチュアアメリカンシェパード
- 第19回 ポーチュギーズ・ウォーター・ドッグ、アイリッシュ・ウルフハウンド
- 第20回 ラサアプソ、ボーダーテリア
- 第21回 イタリアン・コルソ・ドッグ、オーストラリアン・キャトルドッグ
- 第22回 ベドリントンテリア、ボルドーマスティフ
- 第23回 チベタンスパニエル、土佐
- 第24回 ブル・テリア、ブリアード
- 第25回 コモンドール、アイリッシュ・テリア
- 第26回 アイリッシュ・ウォーター・スパニエル、アイリッシュ・ソフトコート・ウイートン・テリア
- 第27回 アイリッシュ・レッド・アンド・ホワイト・セター、イビザン・ハウンド
- 第28回 アメリカン・ウォーター・スパニエル、アメリカン・スタッフォードシャー・テリア
- 第29回 イングリッシュ・セター、잉グリッシュ・ポインター
- 第30回 オーストラリアン・シルキー・テリア、オーストラリアン・テリア
- 第31回 キースホンド、クーパーズ
- 第32回 チベタン・マスティフ、ビレニアン・マスティフ
- 第33回 後期の振り返り

第 34 回 後期試験

第 35 回 1 年間の振り返り

授業の方法

課題の取り組み

教材

プリント、若山正之監修『まるごとわかる犬種図鑑』発行所：株式会社 Gakken 発行年：2023 年
ISBN978-4-05-802066-1

評価の方法

試験 60%、レポートへの取り組み姿勢 40%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

- ・日常生活で犬を見たら犬種名を言えるようにする（わからない場合は調べるもしくは飼い主に確認）
→ノートに記録する、事前に得た情報をまとめておく

実務経験と授業科目の関係

・

動物看護概論 II

授業の目的・概要

内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。

科	通信制学科	教員	寺鼻
コース	-	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

動物看護師コース（1 年次）に学んだバイタルチェック・一般身体検査を基礎とし、一次診療施設でも使用される X 線・超音波検査においての正常画像・異常画像を識別できる。臨床現場での即戦力を目指し、採血・投薬・画像診断等の診療補助において、獣医師の指示に基づいた正確な準備・実施を行うとともに、動物の異常を察知した際は優先順位を整理して、獣医師への確かな報告（ハウレンソウ）ができる能力を養う。

授業計画

【前期】

- 第 1 回 1 年次の復習・診療補助に必要な技術（愛玩動物看護師の役割、対象動物の心理、）
- 第 2 回 診療補助に必要な技術（飼い主の心理、必要器具の準備と管理方法）
- 第 3 回 検査・処置の介助に必要な技術（注射器の取り扱いおよび管理方法、採血、穿刺）
- 第 4 回 検査・処置の介助に必要な技術（カテーテルの挿入、留置、および管理方法、マイクロチップ）
- 第 5 回 投薬に関わる技術（投薬時の確認すべき項目、各剤形の取り扱い）
- 第 6 回 投薬に関わる技術（薬剤の保存について、投薬方法、介助）
- 第 7 回 輸液・輸血に関わる技術（輸液処置時における動物看護師の役割、輸液の適応とリスク）

- 第8回 輸液・輸血に関わる技術（輸液計画、各種輸液剤の特性、輸液に関わる手技）
- 第9回 輸液・輸血に関わる技術（静脈留置針設置の準備、手順、輸液中のモニタリング）
- 第10回 輸液・輸血に関わる技術（輸血の適応、リスク、血液型）
- 第11回 輸液・輸血に関わる技術（輸血計画、輸血の手順、輸血後の血液検査）
- 第12回 心電図と血圧測定に関わる技術（心電図計の構造、血圧計の構造）
- 第13回 心電図と血圧測定に関わる技術（心電図検査、血圧検査の手技、評価）
- 第14回 X線検査に関わる技術（X線検査時の動物看護師の役割、手技）
- 第15回 X線検査に関わる技術（造影検査）
- 第16回 前期試験
- 第17回 国試問題配布（課題）
- 第18回 試験返却・試験の振り返り
- 【後期】
- 第19回 超音波検査に関わる技術（超音波診断装置の原理と構造、動物看護師の役割）
- 第20回 超音波検査に関わる技術（超音波検査でわかること）
- 第21回 内視鏡検査に関わる技術
- 第22回 CT・MRI 検査に関わる技術
- 第23回 眼科検査に関わる技術（視覚検査、眼科神経学的検査、眼底検査、その他眼科検査）
- 第24回 眼科検査に関わる技術（眼科検査、動物看護師の役割）
- 第25回 皮膚・耳の検査に関わる技術（皮膚科の検査、耳介の検査）
- 第26回 皮膚・耳の検査に関わる技術（皮膚科検査における動物看護師の役割）
- 第27回 神経学的検査に関わる技術（神経学的検査の際、環境、必要な道具）
- 第28回 神経学的検査に関わる技術（検査方法について）
- 第29回 症例別検査と看護（1）循環器・呼吸器疾患
- 第30回 症例別検査と看護（2）泌尿器・内分泌疾患
- 第31回 後期試験期間
- 第32回 国試問題配布（課題）

第 33 回 試験返却・試験の振り返り

第 34 回 症例別検査と看護（3）救急・神経・眼科疾患

第 35 回 総復習

授業の方法

本授業は、プロジェクターを用いた講義を基本とする。教科書の内容に加え、講師の臨床経験を活用し理解を深める。

教材

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7 巻（株式会社 EDUWARD Press、発行 2025 年 2 月）

評価の方法

成績評価は 100 点満点で行う。

内訳：成績点 60%前期/後期試験、レポートへの取り組み姿勢 40%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習：プリント記載のキーワードを事前に調べ、ノートにまとめる。

事後学習：講義の疑問点を抽出し、調査した結果をノートに整理する。

実務経験と授業科目の関係

あり

動物人間関係論 II

授業の目的・概要

人と動物の関係について、その歴史と現在の状況について学ぶ。動物と暮らすことの恩恵、適切に関わるための知識（人と動物の福祉、動物介在介入、虐待等）についての理解を深め、動物看護師として社会の人々を支援できる力を育てる。

科	通信制学科	教員	伊勢
コース	*	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

人と動物の関わりの歴史と現在の状況について学び、ペットが人に与える影響について理解できる。

日本と欧米の動物の在り方について、その違いを説明できる。

後期

動物介在介入について理解し、動物福祉の観点から活動を評価できる。

人と動物の福祉の観点について学び、適正飼育や虐待についての知識を深め、自分で考える力を持つ。

授業計画

第1回 人と動物の関係学：導入ガイダンス

第2回 なぜペットを飼うのか（4章－1）

第3回 ペットの効果、現状（4章－2）

第4回 人と動物の関係の歴史（1章－1）

第5回 動物と宗教（1章－1）

第6回 動物と日本の文化（1章－2）

第7回 日本と西洋の動物との関わりと比較（1章－3）

- 第 8 回 前期前半まとめ、復習とディスカッション
- 第 9 回 現代の動物の使用状況 (2 章-1)
- 第 10 回 人の健康への動物の効果 (2 章-2)
- 第 11 回 動物介在療法の歴史 (3 章-1)
- 第 12 回 動物介在介入の定義 (3 章-1)
- 第 13 回 学校飼育動物の現状 (3 章-3)
- 第 14 回 動物介在介入のまとめ
- 第 15 回 前期のまとめ、復習とディスカッション
- 第 16 回 前期試験
- 第 17 回 採点期間のため読書課題
- 第 18 回 前期試験返却・試験の振り返り
- 第 19 回 動物の役割 (使役場面、高齢者、子供) (4 章-5)
- 第 20 回 学校飼育動物の目的と実際、子供と動物 (3 章-3)
- 第 21 回 動物介在活動を実施するために (3 章-2)
- 第 22 回 動物虐待の定義と背景 (5 章-1)
- 第 23 回 動物虐待の対処と法規制 (5 章-2,3)
- 第 24 回 動物虐待・動物利用を考える
- 第 25 回 後期前半まとめ、復習とディスカッション
- 第 26 回 ペットの現状について (4 章-1,2)
- 第 27 回 ペットと幸せに暮らすために (4 章-3)
- 第 28 回 ペットへの愛着と依存 (4 章-4)
- 第 29 回 ペットロス (4 章-5)
- 第 30 回 多頭飼育の問題 (5 章-4)
- 第 31 回 高齢化による飼育困難 (5 章-6)
- 第 32 回 ベテリナリーソーシャルワーク (5 章-7)
- 第 33 回 後期試験

第 34 回 採点期間のため読書課題

第 35 回 後期試験返却・試験の振り返り

授業の方法

授業用プリントへの書き込み、板書、テキスト教材を用いた講義

教材

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書(4 巻)、授業用プリント、資料動画

評価の方法

試験 60%、レポートの取り組み姿勢 20% で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前事後学習：各授業回の教科書指定範囲を読むこと、参考書籍の読書、授業時間外の質問対応

実務経験と授業科目の関係

あり

魚類生理生態学Ⅱ

授業の目的・概要

魚類と総称される生き物について、その生理・生態的特性を理解し、水族館やアクアショップなどで要される「飼育管理・展示解説」ならびに「他者への説明」ができる。その上で、さまざまな魚類の飼育計画を立案することができる。

科	通信制学科	教員	姉崎
コース	-	教員の実務経験	-
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

【前期】

- ①魚類の生理機能を説明することができる
- ②魚病の種類や治療法を説明することができる

【後期】

- ①魚類の要する生息環境を説明することができる
- ②対象魚種の生理的特性を踏まえて適切な飼育計画を作成することができる

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 環境エンリッチメント
- 第3回 魚類の感覚器官①
- 第4回 魚類の感覚器官②
- 第5回 発光・発電
- 第6回 ホメオスタシス
- 第7回 内分泌系

第 8 回 内分泌かく乱物質

第 9 回 生物濃縮

第 10 回 卵発生

第 11 回 初期成長

第 12 回 育種

第 13 回 初期餌量

第 14 回 餌料の選択・摂食生態

第 15 回 前期の振り返り

第 16 回 試験範囲説明

第 17 回 前期試験

第 18 回 行動

第 19 回 種間関係・群集

第 20 回 適応と種分化

第 21 回 生物保護への展開

第 22 回 魚病①

第 23 回 魚病②

第 24 回 魚病③

第 25 回 演習_プレゼンテーション課題への取り組み①

第 26 回 演習_プレゼンテーション課題への取り組み②

第 27 回 演習_プレゼンテーション課題への取り組み③

第 28 回 演習_課題発表①

第 29 回 後期の振り返り

第 30 回 後期試験

第 31 回 試験返却・試験の振り返り

第 32 回 演習_課題発表②

第 33 回 年間まとめ①

第 34 回 年間まとめ②

第 35 回 授業を終えて身についたこと

授業の方法

講義・演習

教材

必要な場合配布する。

評価の方法

期末試験 80%、レポートへの取り組み姿勢 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

AQUA TEXT をはじめとした生物飼育施設での飼育管理、日常生活における河川や海の観察を行う。

実務経験と授業科目の関係

-

栄養学Ⅱ

(授業概要)

犬猫に必要な五大栄養素、エネルギー要求量、ライフステージに応じた栄養管理について体系的に理解することを目的とする。加えて、ペットフードに関する知識（種類・特性・選択方法）を習得し、現場での活用を見据えた実践的知識の定着を図る。

さらに、これらの基礎知識を基に、犬猫以外の動物にも応用可能な栄養管理の考え方を理解し、動物関連業界において幅広く対応できる能力の育成を目指す。

科	生命科学科	教員	伊勢
コース	-	教員の実務経験	○
対象年・機	2年	年間単位数	1単位

目標

前期

・犬猫に必要な五大栄養素の働きやエネルギー要求量について理解し、動物の健康維持に必要な栄養学の基礎知識を習得することができる。

・栄養バランスの考え方を身につけ、各動物の状態に応じた適切な栄養管理の基礎的判断力を身に付けることができる。

後期

・ペットフードの歴史や種類、ライフステージに応じた選択方法について理解を深めるとともに、食物アレルギーや誤食防止などに関する知識を習得することができる。

・個体の状態に応じた適切なフード選択および指導ができる応用的な知識と判断力を養い、動物関連業界において実務に活かせる対応力を身に付ける。

授業計画

- 1回 栄養学とは/栄養を摂取するとは
- 2回 五大栄養素（たんぱく質）
- 3回 五大栄養素（たんぱく質の消化）
- 4回 五大栄養素（炭水化物）
- 5回 五大栄養素（炭水化物の消化）
- 6回 五大栄養素（脂質）
- 7回 五大栄養素（脂質の消化）
- 8回 五大栄養素（ビタミン）
- 9回 五大栄養素（ビタミンの消化）

- 10 回 五大栄養素（ミネラル）
- 11 回 五大栄養素（ミネラルの消化）
- 12 回 ボディコンディションスコア（BCS）
- 13 回 エネルギー要求量（種類）
- 14 回 エネルギー要求量（計算方法）
- 15 回 エネルギー要求量（計算してみる）
- 16 回 前期の振り返り
- 17 回 前期試験
- 18 回 フードの歴史
- 19 回 4D/フードの種類（ドライ・セミモイスト・ウェット）
- 20 回 フードの種類（総合栄養食・栄養補助食・特別療法食）
- 21 回 パッケージの見方
- 22 回 添加物・酸化防止剤・保存料
- 23 回 ライフステージ（哺乳期・離乳期・成長期）
- 24 回 ライフステージ（維持期・高齢期）
- 25 回 ライフステージ（妊娠授乳期・治療期）
- 26 回 食物アレルギー
- 27 回 犬猫が食べてはいけないもの（食物）
- 28 回 犬猫が食べてはいけないもの（植物）
- 29 回 PB と NB の違い
- 30 回 手作り食
- 31 回 サプリメント（使い方）
- 32 回 サプリメント（形状と特徴）
- 33 回 後期の振り返り
- 34 回 後期試験
- 35 回 1 年間のまとめ

授業の方法

講義

教材

授業で使用する教材については、必要に応じて授業中に適宜配布していく。

評価の方法

試験 80%、課題への取り組み 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

次の単元のキーワードになると思うワードを指定し、予め調べてノートにまとめておくことを事前学習とする。また、事後学習として、授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果を

ノートに整理しておくこと。

実務経験と授業科目との関係

あり

哺乳類飼育概論・実習Ⅱ

授業の目的・概要

前期後期を通じて動物を扱う仕事（ペットショップ、動物園、水族館、動物保護スタッフ）や愛玩動物飼養管理士など資格で必要な動物飼育方法・生体管理方法を身につける。具体的には、飼育棟内小動物・鳥・家畜動物・魚類の飼育方法や健康管理方法を実践実習を通して習得する。

前期では基本的な飼育などの実技学習を通じた授業で時間内での業務を意識した生体管理を行うことを目標にする。後期では実際の職場などでも用いられる実践的な内容の学習を行うことを目標にする。

科	通信制学科	教員	植田
コース	-	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位数	2単位

目標

前期

- ・飼育管理における、掃除・給餌・健康チェック・ケア・設備管理を理解し身につける。危険予測や常に安全を考慮した行動することができるようになる。
- ・実習活動時にメンバーとコミュニケーションをとり、報告・連絡・相談などの社会人に必要なスキルを身に着ける。

後期

- ・前期に身につけた知識および技術を応用し更に良い飼育環境をつくるために考え行動することができる。
- ・グループ内でその日の目標と反省を行いながら作業をすすめ、自分の頭で考えながら飼育管理を行う。
- ・就職や進級時の卒業研究に役立つ実践的なスキル・知識を身に着ける。

授業計画

[前期]

- 第1週 小動物飼育 生体管理について（飼育管理について、動物の基礎知識）
- 第2週 小動物飼育 生体管理について（飼育動物の飼育方法）
- 第3週 小動物飼育 生体管理について（設備・用品等の使用方法）
- 第4週 小動物飼育 ハムスターの飼育実践（飼育作業）
- 第5週 小動物飼育 掃除・給餌について飼育実践
- 第5週 小動物飼育 健康管理について飼育実践
- 第6週 小動物飼育 保定方法について飼育実践

第7週	小動物飼育 ハムスターの飼育実践（飼育作業）
第8週	小動物飼育 ハムスターの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）
第9週	小動物飼育 ウサギの飼育実践（飼育作業）
第10週	小動物飼育 ウサギの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）
第11週	小動物飼育 モルモットの飼育実践（飼育作業）
第13週	小動物飼育 モルモットの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）
第14週	小動物飼育 フェレットの飼育実践（飼育作業）
第15週	小動物飼育 フェレットの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）
第16週	前期試験
第17週	前期まとめ・調べ学習
第18週	試験返却・試験の振り返り
[後期]	
第19週	小動物飼育 チンチラの飼育実践（飼育作業）
第20週	小動物飼育 チンチラの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）
第21週	小動物飼育 デグーの飼育実践（飼育作業）
第22週	小動物飼育 デグーの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）
第23週	小動物飼育 ハリネズミの飼育実践（飼育作業）
第24週	小動物飼育 ハリネズミの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）
第25週	小動物飼育 フクロモモンガの飼育実践（飼育作業）
第29週	小動物飼育 フクロモモンガの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）
第30週	後期試験
第31週	後期まとめ・調べ学習
第32週	試験返却・試験の振り返り
第33週	小動物飼育 ファンシーラットの飼育実践（飼育作業）
第34週	小動物飼育 ファンシーラットの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）
第35週	2年の振り返り

授業の方法

講義形式にて飼育の基礎を理解した後、実習を行っていく。

教材

カラーアトラス エキゾチックアニマル 哺乳類編・鳥類編 その他配布資料

評価の方法

試験 40%、飼育実習の姿勢 40%、レポートへの取り組み姿勢 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

小動物のハンドリングや健康チェック

実務経験と授業科目の関係
あり

エキゾチックアニマル飼育・概論実習Ⅱ

授業の目的・概要

本授業では、動物業界で求められる基礎的な飼育技術と生体管理能力を身につけることを目的とする。ペットショップ、動物園、水族館、動物保護施設など、動物を扱う現場や受玩動物飼養管理士等の資格取得に必要な知識・技術を、実践的な実習を通して習得する。飼育棟内の小動物、鳥類、家畜動物、魚類などを対象に、給餌・給水、清掃、環境整備、健康観察などの基本的な飼育管理を学ぶ。前期は、動物の安全と福祉に配慮した基本技術を身につけ、限られた時間内で適切に業務を遂行する力を養う。後期は、より実際の職場を想定した実践的な管理・対応を学び、状況に応じて主体的に行動できる力を身につける。

科	通信制学科	教員	和泉
コース	-	教員の実務経験	-
対象年次	2年	年間単位数	2単位

目標

前期

- ・動物種ごとの生理・生態・習性を理解し、それぞれに適した基本的な飼育方法を実践できる。
- ・給餌・給水、清掃、環境整備、健康観察など、生体管理に必要な基本技術を身につける。
- ・動物の状態を適切に観察し、健康状態や異常を把握するとともに、安全と動物福祉に配慮した対応ができる。
- ・実際の動物飼育現場を想定し、時間管理や作業手順を意識して、責任をもって主体的に飼育業務を遂行できる。

授業計画

前期

- | | | |
|------|-------|---------------------------------|
| 第1週 | 小動物飼育 | 生体管理の実践①（飼育管理の基本と動物種ごとの特性・基礎知識） |
| 第2週 | 小動物飼育 | 生体管理の実践②（飼育動物の特性に応じた飼育方法） |
| 第3週 | 小動物飼育 | 生体管理の実践③（飼育設備・用品の適切な使用方法と管理） |
| 第4週 | 小動物飼育 | ハムスターの飼育実践①（基本的な飼育作業と生体管理） |
| 第5週 | 小動物飼育 | ハムスターの飼育実践②（清掃・給餌・給水等の飼育管理） |
| 第6週 | 小動物飼育 | ハムスターの飼育実践③（健康観察・健康管理と異常の把握） |
| 第7週 | 小動物飼育 | ハムスターの飼育実践④（安全な保定方法と生体への配慮） |
| 第8週 | 小動物飼育 | ハムスターの飼育実践⑤（健康管理・飼育用品・衛生管理の実践） |
| 第9週 | 小動物飼育 | ウサギの飼育実践①（基本的な飼育作業と生体管理） |
| 第10週 | 小動物飼育 | ウサギの飼育実践②（健康管理・飼育用品・衛生管理の実践） |
| 第11週 | 小動物飼育 | モルモットの飼育実践①（基本的な飼育作業と生体管理） |
| 第12週 | 小動物飼育 | モルモットの飼育実践②（健康管理・飼育用品・衛生管理の実践） |
| 第13週 | 小動物飼育 | フェレットの飼育実践①（基本的な飼育作業と生体管理） |

- 第14週 小動物飼育 フェレットの飼育実践②（健康管理・飼育用品・衛生管理の実践）
 第15週 小動物飼育 小動物の総合管理（複数種の特徴を踏まえた飼育・健康・衛生管理）
 第16週 前期試験
 第17週 前期まとめ・調べ学習（飼育管理・健康管理に関する知識の整理と応用）
 第18週 試験返却・試験の振り返り（理解度の確認と今後の課題整理）

後期

- 第19週 小動物飼育 チンチラの飼育実践①（基本的な飼育作業と生体管理）
 第20週 小動物飼育 チンチラの飼育実践②（健康管理・飼育用品・衛生管理の実践）
 第21週 小動物飼育 デグーの飼育実践①（基本的な飼育作業と生体管理）
 第22週 小動物飼育 デグーの飼育実践②（健康管理・飼育用品・衛生管理の実践）
 第23週 小動物飼育 ハリネズミの飼育実践①（基本的な飼育作業と生体管理）
 第24週 小動物飼育 ハリネズミの飼育実践②（健康管理・飼育用品・衛生管理の実践）
 第25週 小動物飼育 フクロモモンガの飼育実践①（基本的な飼育作業と生体管理）
 第26週 小動物飼育 フクロモモンガの飼育実践②（健康管理・飼育用品・衛生管理の実践）
 第27週 小動物飼育 小動物の飼育管理実践①（複数種の飼育作業と効率的な業務遂行）
 第28週 小動物飼育 小動物の飼育管理実践②（健康観察・用品管理・衛生管理の総合実践）
 第29週 小動物飼育 小動物の総合管理（フクロモモンガを含む飼育・健康・衛生管理の確認）
 第30週 後期試験
 第31週 後期まとめ・調べ学習（小動物の飼育管理に関する知識の整理と応用）
 第32週 試験返却・試験の振り返り（理解度の確認と今後の課題整理）
 第33週 小動物飼育 ファンシーラットの飼育実践①（基本的な飼育作業と生体管理）
 第34週 小動物飼育 ファンシーラットの飼育実践②（健康管理・飼育用品・衛生管理の実践）
 第35週 1年間の振り返り（飼育技術・生体管理能力の確認と実践力の総括）

授業の方法

講義・実習

教材

カラーアトラス エキゾチックアニマル 哺乳類編・鳥類編 その他配布資料

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

小動物のハンドリングや健康チェック

エキゾチックアニマル、両生爬虫類、飼育用品概論のノートの見直し

実務経験と授業科目の関係

